

キーワード | 医療・介護連携、在宅ケア、セミナー、医療機関と介護事業所との連携

在宅ケアの多職種連携のための「秋田市在宅医療・ケア連携セミナー」

秋田県 秋田市

【この事例の特徴】

在宅ケアに関わる関係機関が、お互いの取り組みについて知るとともに、チームアプローチを実践するうえでの課題を共有化するため、市と地域包括支援センターが協議を重ねセミナーを開催した。

地域概要

総人口:	320,681 人
65 歳以上人口:	82,210 人(25.6%)
75 歳以上人口:	42,779 人(13.3%)
要介護(要支援)認定者数:	17,405 人(21.2%)
地域包括支援センター数:	16 カ所
第 5 期介護保険料:	5,314 円



背景・経緯

【背景】

- 秋田市地域包括支援センターが主催する主任介護支援専門員の情報交換会や各地域包括支援センターが主催する居宅介護支援事業所の研修等で、主治医等との連携で悩んでいるという意見が多数出ていることを把握していた。また、秋田市福祉事務所の嘱託医から病診連携(総合病院と診療所の連携)はだいぶできているが、介護の事業所は数が多く、医療機関と介護事業所でかなりのすれ違いがあるのではといった意見や、秋田市歯科医師会から訪問診療等を進めて行くうえで、介護関係者を含めた他職種との連携が必要といった意見が行政側に寄せられていた。

【経緯】

- こういった背景により、介護関係者と医療関係者の双方がやりやすい形で業務を効率的に進めていくことが地域包括ケアシステム構築のためには有益であると判断し、平成 23 年度末頃から、秋田市地域包括支援センターと秋田市が協議を重ね、セミナーを開催することにした。
- テーマは、それぞれの取り組みや課題等を共有し、多職種の連携(チームアプローチ)の推進を図ることにした。

予算等:

包括的支援事業から 140,000 円

取り組み内容と方法

【目的】

- 各関係機関が、他機関で行っている在宅ケアに関わる取り組みについて知る。(情報共有)
- 在宅ケアに関わる各関係機関が、チームアプローチするうえでの課題等について考える機会とする。

【内容】

- 基調講演とパネルディスカッションの構成で実施。
 - ◇ 基調講演:『医療と介護の連携について』のテーマで医師による講演。
 - ◇ パネルディスカッション:『在宅ケアの現状と課題について』をテーマに、座長は基調講演を行った医師に依頼し、医療、介護、行政のそれぞれの立場からパネリストを選出して行った。
- 実施時期:平成 24 年 7 月 11 日(水) 192 名の参加。

【関係機関】

- 対象者:医療機関、居宅介護支援事業所、行政等の医療や介護、福祉に携わる関係機関
- 秋田市医師会、秋田市歯科医師会、秋田県薬剤師会秋田中央支部には、セミナーの講師やパネリストの派遣について協力依頼した。

【取り組みを行う中での課題や苦勞した点】

- 初めての試みで、テーマをより具体的なものに絞りきることができなかったこともあり、各パネリストには取り組んでいる内容だけでなく、課題についてもふれてもらうようにした。

取り組みの成果と課題

【わらいの達成状況や評価】

- パネリストの発表からそれぞれの機関で行っている在宅ケアに関わる取り組みについて知る機会となった。
- 参加者のアンケートからも、8 割が「参考になった」と回答。
- また、「お互い(多職種同士)の情報交換が大事である」、「在宅での生活を継続するためには、各専門分野の連携が必要不可欠」などの声も寄せられ、チームアプローチするうえでの課題等について考える機会になったと思われる。
- 次年度以降の継続開催を要望する声が聞かれたため、こういった連携の機会が必要とされていることが認識できた。

【取り組みの効果～高齢者等や実施団体、保険者のそれぞれの立場から見た取り組みの成果～】

(1) 実施主体から見た取り組みの成果

- 医療と介護が一同に会する機会はあまりなく、特に歯科医師や薬剤師については、ほとんど連携がなかったことからお互いの情報を共有する良い機会となった。また、効率的な業務が行われるきっかけになったと思われる。
- さらに、パネリストに行政を入れたことにより、市の現状や取り組み等について示すことができた。

(2) 参加者への好影響(アンケートより)

-
- 今後、他職種連携についての必要性を感じ、現場にいかせるケアを考える機会を得た。
 - 在宅での生活に、場面に応じて歯科医師、薬剤師との連携も必要になってくると感じた。また、日常、関連している訪問看護、包括との関わりも、もっと深めていくことも重要となってくると思われた。
 - 実際の現場でどの様に連携しているのか、症例とあわせて連携チーム毎の取り組みを知りたい。

(3) 取り組みを通じた新たな地域課題の発見や、新たな取り組みの萌芽、ネットワーク強化等の中間的な成果

- セミナーを開催したことにより、医療と介護の連携が今まで不十分であったことが浮き彫りになったため、継続して開催していくことが必要と判断した。また、実際の現場で遭遇している課題の共有、認知症を理解する場の提供、医療と介護の双方が求めていること等の課題が再認識され、より一層の連携が重要であり、その課題を整理し優先順位をつけ、どう取り組んでいくか協議する必要がある。具体的にはセミナーをどういった内容にするか関係者間で協議する小委員会の設置等。
- 今後も、医療と介護の連携の機会を設けていくことによって、高齢者への包括的・継続的なサービス提供が可能となり(高齢者へのケアの質が高まり)、こうした地道な積み重ねが、地域包括ケアシステムの構築の基盤となるのではないかと考えている。

参考 URL、連絡先

- 秋田市地域包括支援センター
<http://www.akita-houkatu.jp/>
018-862-8114